

都高時報

第45号
都大附高新聞部
東京都目黒区金町591
電話 生原(78) 0749
編集者 岩田 末広
責任者

第八回記念祭にあつて

都立の自治を結集しよう

新制第八回記念祭が目前にせまされた。今年の記念祭でも、自治活動の中心として、新制の自治を結集しよう。...

記念祭 形式に大幅な変化

スポーツとファイアー

記念祭を二週間後にひかされた。十月五日生徒大会が開かれた。...

一 張 記念祭に当りて

この記念祭にあつて、都立の各高等学校が、それぞれに、独自の形を打ち立てようとしている。...

この記念祭にあつて、都立の各高等学校が、それぞれに、独自の形を打ち立てようとしている。...

国鉄運賃上げか

定期券、学割の割引率引上げ

国鉄では来春四月から運賃を二割値上げしようとしている。この値上げと同時に、定期券の割引率も引き上げられる。...

規則改正今月中
自治委員会、十月一日の延長された任期を完成させることを目指している。...

砂川へカンパを

砂川の強制測量は、国民の支持の下で、中止せよ

砂川町の強制測量は、国民の支持の下で、中止せよ。行政決定による土地収用の法的根拠をめぐり、砂川町と国の間に、長期的争議が生じている。...

都高懇、連盟

都高懇は連立文化祭の準備の中で、現在の懇談会形式を連立形式に改組しようとしている。...

穴

穴、大東京五百年祭、とやら、外園から市長を招いたり、花電車や学芸行進、進退何となく、華々しく盛り上げる。この費用が、その都の財政に打撃を与える。...

穴、大東京五百年祭、とやら、外園から市長を招いたり、花電車や学芸行進、進退何となく、華々しく盛り上げる。この費用が、その都の財政に打撃を与える。...

31年版成る!

総評を得た30年版に引きつづき、ここに31年版出版の準備が完了した。本書は今年の入試問題は多く、最近五年間の全問に要する学芸、出題された入試問題を、それぞれに、大学の別、年度別にまとめ、ヒント、解答を添えたので、受験準備の参考にしてください。また、自分の志願する大学では、どのように入試問題が出されるか、本書はその傾向を解明しています。

問題収録校

英 語	英大、東大、京大、阪大、神大、早大、慶大、立命館大、同志社大、関西学院大、同志社女子大
数 学	東大、京大、阪大、神大、早大、慶大、立命館大、同志社大、関西学院大、同志社女子大
国 語	東大、京大、阪大、神大、早大、慶大、立命館大、同志社大、関西学院大、同志社女子大
物 理	東大、京大、阪大、神大、早大、慶大、立命館大、同志社大、関西学院大、同志社女子大
化 学	東大、京大、阪大、神大、早大、慶大、立命館大、同志社大、関西学院大、同志社女子大
世界史	東大、京大、阪大、神大、早大、慶大、立命館大、同志社大、関西学院大、同志社女子大
日本史	東大、京大、阪大、神大、早大、慶大、立命館大、同志社大、関西学院大、同志社女子大
人文地理	東大、京大、阪大、神大、早大、慶大、立命館大、同志社大、関西学院大、同志社女子大
一般社会	東大、京大、阪大、神大、早大、慶大、立命館大、同志社大、関西学院大、同志社女子大

三省堂 東京 110159

最近五箇年 三省堂刊 大学別入試問題集

明解六法 全書

10月末日発売! 150円

三省堂 東京 110159

十月十三日

砂川ルポルタージュ

吉田 夏生



僕の左に吉健がいる。スクラムにをはずして胸のポケットに入れて入って五分くらゐ経つたと思われ、頃一時計は持っていたが手を組んでゐるのを見るのが出来な。一目の前の石垣がぐうつと厚くなつたかと思つと、両腕と胸に大きな圧力を感じた。その時には眼鏡

「それ押し返せ」
「わー」

二列目がこわれるのを見た。しかしその時、僕等のの方が少しづつ優りはじめた。じりじりつと前へ進む。目の前の警官の顔がゆがむ。するするつと二米くらゐ押し返す。吉健が「痛」と言つて腕をひき抜く。うしろもがいた僕は彼の腕を離す。僕は押した。夢中になつて押した。僕の背中へも大きな力がかかつてくる。と急に体が軽くなった。僕はいつの間にか一番前に来ていた。完全に一人であった。左右には誰もな。目の前に青いカブトがある。二人の警官が僕の両脇を捕えた。そして前へ引かされる。僕は振り離さつてきた。すまむと両手を振り

撮影機が動き出す。
「それ押し返せ」
「わー」

芦の湖の富士

去る九月末、先生達の懇親会で、熱海から十國峠の大観を眺しみながら、元箱根に出た離宮跡で、甘酒をのみながら曇つた大空の一角に顔を出してくれた富士を心ゆくまゝ眺めて(松岡)

れた。上体をかがめ、腰を引いてふんばると、後から棍棒で腰を襲る奴がいる。ドタ靴で蹴る奴がいる。足がつかぬ。レイコンートのボタンがぱつと飛び散つた。するするつと二米ばかり引きずられて腰に重い打撃を受けた。ねばつてこの土の斜面を押し上げられて、やつと腕が自由になつたのでぱつと腰を伸して驚いた。そこに幅一米ばかりの道があり、その両側にすぢつと青い壁が続いてゐる。前線へ戻ろうとする棍棒が突き出され、ドタ靴が両腕をねらつて襲いかかる。いくつかわれたが数えきれない。ただ絶えず胸をくぐりながら、ついに打撃を受けながらその青壁の道を壁の足きるまで歩かされるのだ。いや歩かされるというよりも蹴つ飛ばされてサッカーのボールのように動かされるのだ。

「学生さん」
「早く返れ」

切れ切れに聞える罵倒。転んだら踏み殺されると思ひながら、さあめき進む。ついに足をひっかけ、片膝をついて両手をつく。叩打。叩打。

僕は警官には一切手向をしないのだ。いくつも獲られても我慢をすればならぬのだ。ちよつともも振り返す。もうそれだけ罪が成立し、その者が罪人になるばかりでなく、警官隊員の口裏となる。

「クソッ」

た突き飛ばされ蹴つ飛ばされた。以前映画で見たアメリカインディアンが捕虜をなぶり殺しにするやり方とまったく同じだ。僕は罪人のように散々突き回されてやつと打撃のトンネルをくぐり出た。後を振り返つて、僕は見た。青い野獣達がうなり声をあげて、無抵抗の同胞達を引き裂き、たたき伏せ追ひ回すのを。カーツと頭に血が上つた。もう何もわからなくなつた。青い野獣達が無性に憎くなつた。もう、そう簡単になんかせはしないぞ。僕はまた駆け戻つた。混乱の最中に戻つた。三人の女子学生を五、六人の警官が取り囲んでてかへつて行こうとする。

「何するんだ」と叫びながら数人の組員が腕を組んでその間に立ちまがる。

「何ぞ」

青い野獣達は飛びかかる。組員は苦しむ。だが、僕はいつの間にかしつかり腕を組んでいた五人ばかりの同胞達と一緒にそこへかけつけた。青い野獣達は僕等をひき離そうとする。僕は離れまざる。その間に三人の女子学生はうまく逃げたらしい。もみ合つてゐるうちに僕はさうするも退つた。急に警官達は動かさなくなった。僕等の前二米ばかりのことろに石のように立っている。見ると先刻僕等がスクラムを組んでゐた所を中にくるつと二重の青い壁が作られていた。その中で測量隊員達が手早く仕事をほめてゐた。いくつもの三脚が中に立

ちカヌランマンが登つてシヤッターを切る。僕等はまた新たにスクラムを組んで壁のまわりを取り巻いた。僕は知らないうちに最前列に入つてゐた。それから長い退屈なにもみ合いになつた。青い壁は無表情に動かない。時々巨大な飛行機がうんばりになるような爆音をたてて顔上低く飛ぶ。柵の中をアメリカ兵の乗ったジープが、トラックが、通つて行く。雨はスランコリックな空から僕等スクラムを組んでゐるものの上にも、警官の青い鉄カブトの上にも、同じように無表情にサァー降つてゐる。

僕等は歌を唱う。体中いたるところが痛むが我慢して唱う。が、緊張がゆるんだせいか、ポケットとした空を保持であつた。後から怒りが飛ぶ。

「やい、その青い、こつちを向け。おいみんなあの顔をよく憶えておけよ。電車なんかで会つたら、うんとお礼するからな。」

「税金下ロボボー夫、お前のオヤシの顔が見たいよ。」

「お前がオマシロはねえのか。」

「夫！夫！」

しかし前の方の者は何も言わない。僕のまわりの人々は皆ひびくやられていた。朝からの戦いで疲れていた。立っているのが精いっぱいだった。僕の隣の人はずいぶんお百姓さんらしくした。寒さであるる。壁をなから、それでも声をふりしほつてインターを、原爆の歌を唱つてゐた。

(第六面につづく)

(第五面より)

警官達は煙草を吸いはじめた。一人がスクラムの中からマッチを借りた。パチパチ散発的な拍手が起った。少し笑聲が起った。

不審なことに僕の心に先刻おんなりに燃えさせた警官への怒りと憎しみがワソリのように消えてしまった。誤った命令によって自分の行動の意味も知らずに「日間暴れ回った哀れな男達、彼等だって僕と同じ様に大きな時代の中の小さな弱い人間に過ぎない。若いカブトから時々ほたりとせずくが落ちて、静かに官服の肩へ滑えて行く。細い雨を見た。そして冷たい灰色の空を見た。今日のこの不幸な闘争の背後に暗い大きな力があるのを強く感じた。

夕方、警官達は動き出し、黙々と引き上げて行った。全選手連のスクラムがそれを追いつたままに続いた。僕はスクラムから離れて測量の行われた畑へ入った。やられたな、と感していた。が敗北した、という気は少しもなかった。明日また来れば、力のつばい戦うだけ、と単純に判断して来た。

何かにつまみついて足元を見ている。黒い土の中から白いほろいものが出てくる。杭かな、と想ってよく見ると、なべんだ大根であった。スケッチブックを持って写生している学生がいる。なかなか上手くかいている。「学生新聞」と腕章をつけた学生がいたので、今日は大体でうしろ向きをしたのか、とさきと、今日の測量は形式的に

進行したもので、美談には呼べない測量らしい測量はやっていないとにらんでいるが、わがわが、と。もし彼の通り通り、こゝろなげかけたことはいない。腹が立つよりもあきれしてしまう。

役場の前まで行く、丁度警官隊が通過して行くのに通りの両側から罵倒をあびせているところだ。税金下ロー、犬、人殺し、鬼、あとで償え、と、返れ、返れ、返れ、と。興奮した憎悪の声であった。警官達は黙って、しかし不安げにキョロキョロしながら虚勢を張って歩いていた。

向うすねがすきすき痛む右足を引きずりながら吉健を探した。全選手連の本部へ行ったがいなかった。裏庭では丁度炊出しの最中で、美味そうな白い湯気の立つ飯がパン屋のパンを入れる木の箱の上などに入れられ、リヤカーに積まれて運び出されていた。阿豆佐味天神の方へ探して行く途中向うから来る吉健に会った。彼も、やられたと言ったが、ともかく無事で良かった。

神社で行われた報告会で参加者六三〇〇人のうち重傷三三人、検査者一七人と発表された。そしてすぐに検査者釈放を要求するため代表が出発した。軽傷者は、恐らくスクラムを組んだもの全員ではなかと思われる。翌日の新聞に八百余人となっていたが、僕等二人のように黙って帰ってしまっただものは数えられていないのだ。帰りの電車の中で、トブネズミのよちよちと来て、疲れた僕等

は多くの乗客の好奇心を満足させる対象、もしくはあつしく不快なもの以上にはなり得なかった。あの中年の官吏風の男は、顔をしかめながらわざわざ僕の隣りから向う側へ席を移してしまつた。勿論、僕等はそんなことに対して腹を立てる程単純でもなかった。(筆者は三A)

ブリザードのすみかへ

戸谷洋

ジェット機が飛び交い、まあな人工衛星まで打ち上げられるという時代になって地球はますます縮小されつつあるが、それでもなお人間の踏んだことのない部分、いわゆるテラ・インコグニタがまだまだ残っている。

未知へのあこがれは、人間本来の欲望の一つであろうが、とくに地理学の書生として、地上最大の空白部である南極大陸を自分の眼で眺め、足を踏むことが出来るというには、望外の幸といふべきであろう。しかも、国際地球観測年のテーマは、高層気象、電離層宇宙線、地磁気、重力、極光夜光現象、氷河、地震などの観測であるが、未知の地域に遠征する以上、測量、地理、地質、地上気象などの観測も当然行うべきである。という隊長の意見が承せられて、はからずも参加を許されたのであるからますます望外の感を深くする。

僕等はそんなことに対して腹を立てる程単純でもなかった。(筆者は三A)

の国費と国民一般の貴重な資金を使用することを思ひ、また多くの物心にならざる後援を受けて、喜び以上に責任の重さを痛感しないわけにはいかならぬ。この観測年に当たって南極大陸には一ヶ国、五ヶ地点の観測網が設定される予定と聞いていたが、リニツツオウ・ホルム湾内に建設される唯一の日本基地が沿岸観測点密度の最も少ない部分であるだけにその重要度は大きいのである。

地理部門の目標は、露岩地域の地形観察や沿岸陸棚の調査からこの地域の最近地質時代における地形発達史を考究することであり、さらにわが国では従来研究出来なかつた大陸氷についてその表面形態の記載や、その運動の解析なども行うつもりである。ただし、今回は接岸可能な二、四週間に基づいて設定することが隊全体の主目的であるので、事情の許す範囲で次回観測のための予備調査が出来れば幸であると考えている。

ある。本号第四面に解説した砂川の問題を、ここでもう一度考えてみよう。文中の「吉健」は二年C組の吉原健一郎君のことである。筆者のゆるしを乞ふ、大幅に割愛したことを筆者におわびします)

観測年主テーマの関係部門はほとんど基地内観測に終始するが、われわれの従来テーマの部門は主として移動観測を行う必要がある。雪上車や大ダリ、さらには人力ぞりなどによって、青水やブリザード(極地暴風)など、文字や写真でしか知らぬものの世界を充分体験出来るわけである。地理学者、見てきたような写真をつきとある先手が囁破したことがあるが、ウンでない五体で感得した知識をこの紙面に記載出来る日を楽しみにしている。(出発を一月後にひかえて)

(筆者は都立大学理学部助手兼本校講師で南極予備観測隊員)

沖繩と文通しよう
米軍の庄政と戦う沖繩の同胞を、文通によって激励しよう
発送等については、新聞部がまわって行きます。

カメラと材料

大好評の
拡大焼付

自由ヶ丘
前 **ポパイ**
TEL (78) 5360

いつも素晴らしい味・量の

玉家のパン

都大坂下・玉家製パン店

紙と文具は

株式会社 **津国屋商店**

都大前通り 電(78)5472

新刊図書・雑誌

阪東書店

都立大学駅前
TEL (78) 5261